

「同志社スポーツ健康科学」執筆要領

2008年 12月 3日制定

2009年 9月 25日改訂

1. 最初のページに論文タイトル（和文，英文），著者（和文，英文），所属（和文，英文），抄録（和文，英文），キーワード5つ以内（和文，英文）を記す。和文抄録は400～600文字，英文抄録は200～300語で作成する。

2. 共著では，著者はコンマで区切って連記し，著者名の右肩に必要な数字を付けることにより，所属をわかるようにする。論文投稿者の英文名の書き方は下記のようにフルネームで記す。

例)

日本名：同志社 太郎¹，女子大 花子²・・・

英語名：Taro Doshisha¹，Hanako Joshidai²，・・・

所属名：¹同志社大学スポーツ健康科学部（Faculty of Health and Sports Science, Doshisha University）

3. 大項目より小項目への順序は以下のようにする。

・ I., II., 1., 2., 1), 2)

項目の書き方は，自然科学系原著論文については，

I. 緒言

II. 方法

III. 結果

IV. 考察

V. 結論

参考文献

の順に記載するものとする。なお，結果と考察は一つにまとめてもよい。また，総説，報告の場合は上記の限りではない。

4. 本文中での文献の記載や引用については以下のようにする。

・原則として著者・出版年方式(author-date method)とする。

・文献リストは，本文の最後に著者名のアルファベット順に記載する。

・論文中で文献を引用する場合には，基本的な文献を厳選し，正確に引用する。

・引用した文献はすべて文献リストに掲載する。

・文献リストについて，著者名は全著者名とする。学会雑誌名は正式名に従う。記載は著者，論文名，書名，雑誌名，巻数，頁，年号の順とする。

・本文中の文献は原則として著者名と発行年で示し，（ ）でくくる。ただし，この方式で表記することが著しく困難な場合はこの限りとしなない。

(1) 本文中で文献の一部を直接引用するときは，引用した語句または文章を，和文の場合には「」，欧文の場合には“ ” でくくる。

[例]

① 「現代スポーツの特徴」（田端，1998）という標語は・・・

② “interpretive cultural research” (Davis, 1998)の視点・・・

(2) 著者が2名の場合，和文の場合には中黒(・)，欧文の場合には“and”を用いてつなぐ。ただし，著者が3名以上の場合は，筆頭著者の姓の後に，和文の場合には「ほか」，欧文の場合には“et al.”を用いる。複数の文

献が連続する場合はセミコロン(;)でつなく.

[例]

③ 「……」 (海老名・榎本, 1998) という結論は…….

④ “……” (Wild and Rover, 1998) という考え方には…….

⑤ 「……」 (土倉ほか, 1998) という結論は…….

⑥ “……” (Learned et al., 1998) の視点は…….

⑦ 身体活動の減少は心疾患危険因子を増加させるという報告 (Paffenbarger et al., 1978; Morris et al., 1980)

(3) 同じ論文や文献を2回以上引用する場合には, 文献表にはページ数を記入しないで, 本文中に著者とページ数を()をつけて記入する.

[例]

⑧ 「……」 (福士・後藤, 1998, p.21) という仮説は…….

⑨ “……” (Livermore, 1951, pp.101-102) という主張には…….

(4) 本文中で参照した文献を明記する場合には, 次のような形で著者名と発行年を記入する. 同一著者の文献が複数ある場合には, 括弧内の発行年をコンマ(,)でつなく. 同一著者の同一年に発行された複数の論文は発行年の後に a, b, c, …をつけて区別する.

[例]

⑩ 徳富ほか(1998)によれば…….

⑪ 新島(1996, 1998)による一連の研究では…….

⑫ 久保田・大磯(1987)によれば…….

⑬ Hardy and Harris (1998)およびHidden (1987)の見解は…….

⑭ Janes et al. (1951)によれば…….

⑮ Clark (1995, 1997a, 1997b)の一連のフィールドワークでは…….

(5) 翻訳書の著者を表記するときは, カタカナ表記とする.

[例]

⑯ ベリー(1936)は……. このベルツの概念…….

(6) 翻訳書と原著の両方を引用したときには, 翻訳書は上記(5)に従って記入する.

原著は欧文表記とする.

[例]

⑰ ブラウン(1970)によれば……. しかしながら, ブラウン(1970)の～論では……, 一方, Doane (1971, 1972, 1980)の一連の著作では…….

(7) 注記

注は, 本文あるいは図表で説明するのが適切ではなく, しかも補足的に説明することが明らかに必要なときのみ用いる. その数は最小限にとどめる. 注をつける場合は, 本文のその箇所に注¹⁾, 注²⁾のように通し番号をつけ, そのページの下(欄外)に一括して番号順に記載する. 注記の見出し語は注¹⁾……とする.

(8) 文献一覧の著者名表記は以下の通りとする.

日本名: 同志社太郎, 女子大花子……

英文名: Doshisha T., Joshidai H., …